

2024. 9. 30

【日本鉱工業生産（24年8月）】

生産は予想を大きく下回る

～先行きは設備投資計画の進捗等により均せば回復を予想～



経済調査部 エコノミスト
藤田 敬史

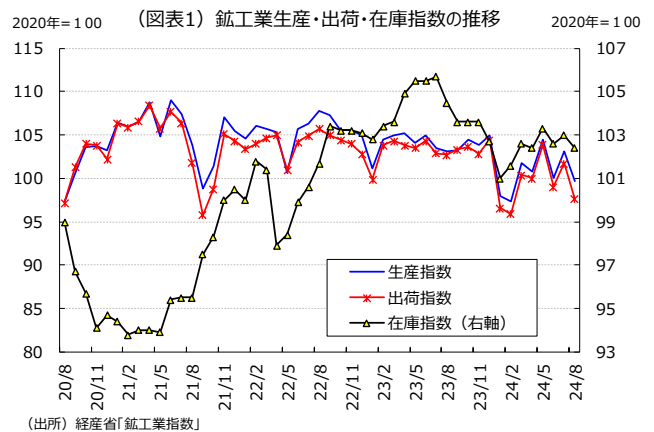
ポイント

- 8月の鉱工業生産指数（季調値）は前月比▲3.3%と、2ヵ月ぶりのマイナスとなった。経産省は基調判断を「生産は一進一退」にすえ置いた
- 自動車工業が6月に発覚した認証不正問題に伴う一部車種の生産停止が長引いたことに加え、8月下旬の台風接近に伴う工場稼働停止の影響により大きく落ち込んだ
- 先行きの生産は、設備投資計画が徐々に実行に移されること等により、均せば回復傾向が続くと予想する

1. 生産は市場予想を大きく下回り、2ヵ月ぶりのマイナス

8月の鉱工業生産指数（季調値）は前月比▲3.3%（図表1）と2ヵ月ぶりのマイナスとなり、同▲0.5%だった市場予想を大きく下回った。経産省は基調判断を「生産は一進一退」にすえ置いた（図表2）。

業種別に見ると、主要15業種中12業種が前月比マイナス、3業種がプラスとなった。マイナスとなった業種の1位は自動車工業（前月比▲10.6%、寄与度▲1.40%ポイント）、2位は電気・情報通信機械工業（同▲6.2%、同▲0.55%ポイント）、3位は生産用機械工業（同▲4.6%、同▲0.39%ポイント）であった。一方、プラスとなった3業種は輸送機械工業（除、自動車工業）（同+6.8%、同+0.19%ポイント）、電子部品・デバイス工業（同+2.2%、同+0.14%ポイント）、化学工業（除、無機・有機化学工業・医薬品）（同+2.6%、同+0.12%ポイント）であった。



(図表2) 鉱工業生産の基調判断の推移

	基調判断	方向性
21年11月～22年3月	生産は持ち直しの動きがみられる	↑
22年4月	生産は足踏みをしている	↓
22年5月	生産は弱含み	↓
22年6月～7月	生産は一進一退	↑
22年8月～9月	生産は緩やかな持ち直しの動き	↑
22年10月	生産は緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる	↓
22年11月～23年2月	生産は弱含み	↓
23年3月～6月	生産は緩やかな持ち直しの動き	↑
23年7月～12月	生産は一進一退	↓
24年1月～6月	生産は一進一退ながら弱含み	↓
24年7月～	生産は一進一退	↑

(出所) 経産省「鉱工業指数」

2. 普通乗用車、半導体製造装置等がマイナス寄与

マイナス寄与が1番大きかった自動車工業の内訳では、普通乗用車が前月比▲16.2%と大きく落ち込んだ。大手自動車メーカーで6月に発覚した認証不正問題に伴う一部車

種の生産停止が長引いたことに加え、8月下旬の台風接近に伴う工場稼働停止が響いた(図表3)。

2番目にマイナス寄与が大きかった電気・情報通信機械工業では、レーダ装置が先月の大規模受注の反動で大きくマイナスとなった(7月:前月比+1011.2%、寄与度+0.36%ポイント → 8月:同▲92.3%、同▲0.35%ポイント)。

3番目にマイナス寄与が大きかった生産用機械工業では、半導体製造装置(前月比▲18.7%、寄与度▲0.66%ポイント)が大幅マイナスとなった。元々振れの大きい品目であり、4月は前月比+36.1%、5月は同▲23.9%、6月は同▲18.0%、7月は同+30.2%と二桁の増減が続いているが、均せば回復傾向にある(図表4)。WSTS(世界半導体市場統計)の半導体市場予測(2024年6月)では、2024年、2025年の半導体市場は堅調な成長が予想されている。また、シリコンサイクル(半導体市況の好不調の波)も回復基調にある様子が見え始めるなど(図表5)、当面は半導体関連が生産の下支えとなる展開が期待される。

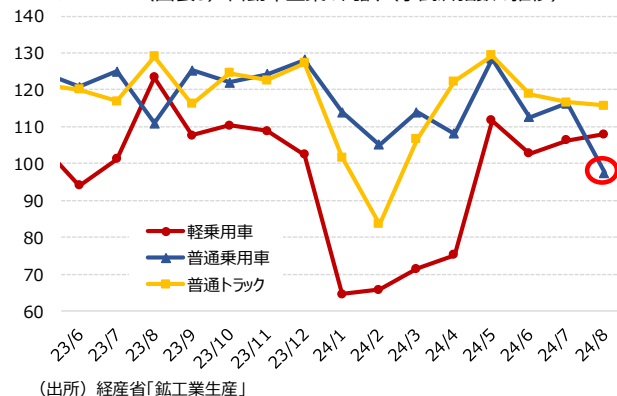
プラス寄与が大きかった業種のうち、輸送機械工業(除、自動車工業)では航空機用発動機部品(前月比+8.7%、寄与度+0.12%ポイント)が押し上げた。電子部品・デバイス工業ではデータセンター向けなどのモス型IC(メモリ)(同+25.6%、同+0.24%ポイント)がプラス寄与となった。

3. 大手自動車メーカー、約3ヵ月ぶりに生産再開

製造工業生産予測指数を見ると、9月は前月比+2.0%、10月は同+6.1%となっている(図表6)。9月は輸送機械工業(前月比+9.2%、寄与度+1.77%ポイント)、汎用・業務用機械工業(同+8.0%、同+0.66%ポイント)等のプラス寄与度が高い。10月は生産用機械工業(同+33.4%、同+3.76%ポイント)、輸送機械工業(同+5.9%、同+1.21%ポイント)等がプラスの見通しである。なお、計画値に含まれる上方バイアスを経産省が補正計算した9月の予測値は同+0.3%である。

生産用機械工業は、9月は半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置がマイナス寄与の見込みで前月比▲6.6%だが、10月は一転、半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置を中心にプラスに寄与、同+33.4%と急増するとの予想で、2ヵ月通算では+24.6%と、主要11業種

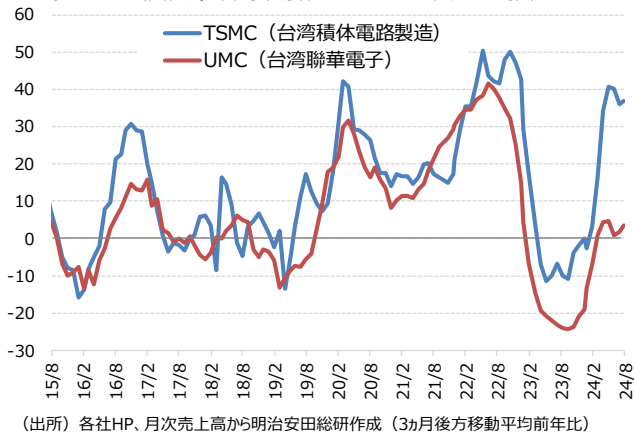
(図表3) 自動車工業の内訳(季調済指数の推移)



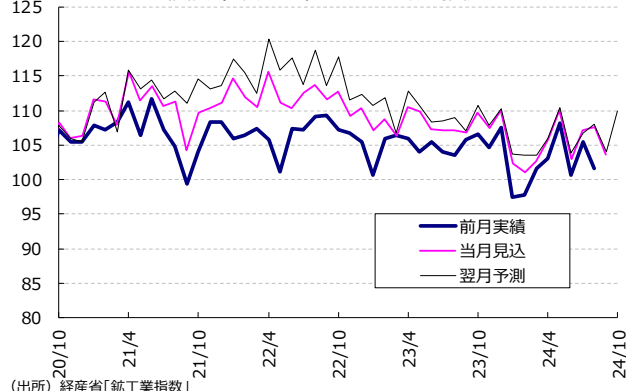
(図表4) 半導体製造装置の生産指数の推移(季調済)



(図表5) 台湾半導体メーカー大手2社売上高推移



(図表6) 製造工業生産予測指数の推移

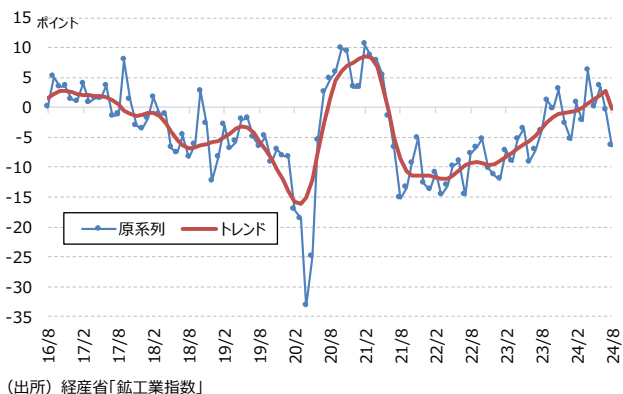


中最も高い伸びとなっている。

輸送機械工業では乗用車、車体・自動車部品・その他のプラス寄与が見込まれている。6月に発覚した認証不正問題で生産を中止していた3車種について、大手自動車メーカーは9月4日から生産を再開しており、9月、10月ともプラスの見通しとなっている。2ヵ月通算では+15.6%で、主要11業種中2番目に高い伸びとなっている。

企業の生産活動に対する姿勢を示す生産活動マインド指標(DI)は▲6.5と前月の▲0.4から低下、トレンドは▲0.2となった。経産省はDIのトレンドが▲5を下回ると景気後退局面入りの可能性が高いとしているが、過去14ヵ月間これを上回っている(図表7)。

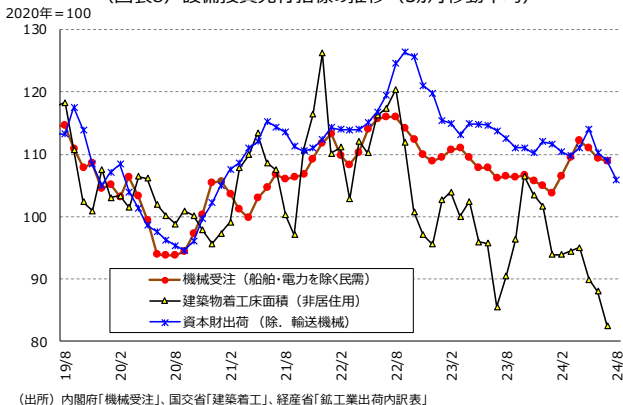
(図表7) 生産活動マインド指標(DI)



4. 設備投資計画、徐々に実行へ

設備投資の先行指標の一つである8月の資本財出荷(除. 輸送機械)は前月比▲3.9%と、7月の同+7.0%から2ヵ月ぶりにマイナスとなった(図表8)。そのほかの先行指標を見ると、7月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は前月比▲0.1%と2ヵ月ぶりのマイナスで、公表元の内閣府は基調判断を「持ち直しの動きに足踏みがみられる」にすえ置いた。建築物着工床面積は振れが大きいですが、均せば一進一退の推移で、足元では弱含んでいる。

(図表8) 設備投資先行指標の推移(3ヵ月移動平均)



前述の各指標は元々振れが大きいという特徴があり、設備投資の基調をはっきりとは確認できない。ただ、日銀が

7月1日に公表した日銀短観、日本政策投資銀行(DBJ)が8月6日に発表した2024年度設備投資計画調査でそれぞれ強い設備投資計画が示されたのに続き、内閣府と財務省が9月12日に公表した法人企業景気予測調査(7-9月期調査)でも、2024年度の設備投資額は前年度比+12.5%(4-6月期調査12.1%)と高い伸びとなった。内訳は製造業が+15.9%(同15.4%)、非製造業が+10.6%(同+10.3%)と、ともに2桁増の見込みとなっている。企業収益は高水準を維持しており、今後、強めの計画が徐々に実行に移される展開が期待される。

本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください

明治安田総合研究所 エコノミスト 藤田 敬史

電話番号: 03-6261-7947

e-mail: takafumi.fujita@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元●株式会社明治安田総合研究所〒102-0073東京都千代田区九段北3-2-11TEL03-6261-6411